

第63回景況アンケート調査 結果報告書

(令和6年8月1日作成)

足利商工会議所

足利市通3丁目2757
TEL0284-21-1354 Fax0284-21-6294

《令和 6年 4月～ 6月期》実績
《令和 6年 7月～ 9月期》見通し

調査要領

1. 調査目的

本調査は、当所管内事業所の経済動向及び現状を把握し、今後の経営支援や関係機関への施策、要望等の参考に資することを目的とする。

2. 調査期間

令和6年6月10日(月)～令和6年7月16日(火)

3. 調査対象企業

足利商工会議所議員事業所、足利地区雇用協会事業所など市内主要企業201社
(うち回答企業数140社：回答率69.6%)

4. 回答企業数

製造業	52 社
繊維工業	13 社
建設業・設備工事業	19 社
卸売業・小売業	29 社
飲食業・サービス業	27 社
計	140 社

5. 景況指数DIについて

分析方法[景況動向指数(DI)による]

景況指数は、好況・不況の差を指数にしたものであり、基準指数が「0」で、上限はプラス100・マイナス100となり、プラスは景況の好転(増加)、マイナスは景況の悪化(減少)をあらわしている。

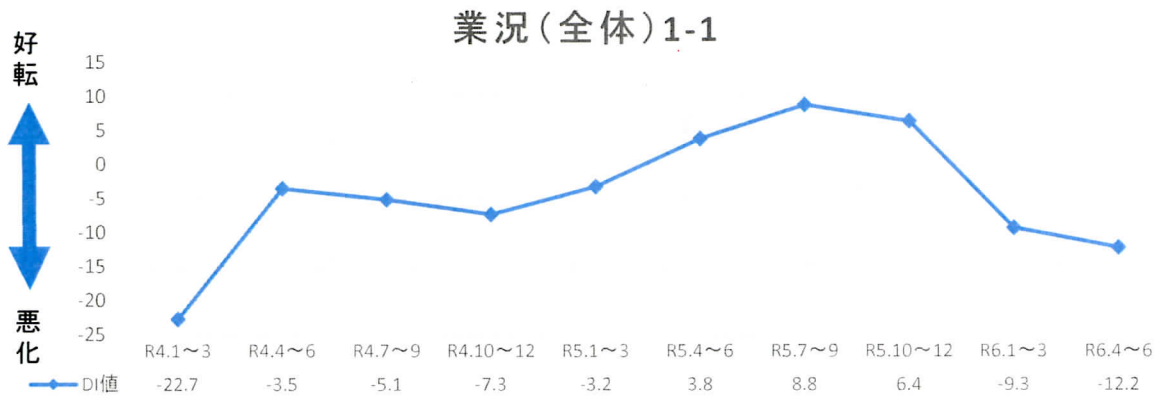
DIについては数値の水準のみならず、数値の変化がどういう方向を向いているかが重要になっている。

DI方式は、
$$\frac{3x - 3z}{3x + 4y + 3z} \times 100$$
により算出

x：「好転」「増加」「上昇」等の回答企業数
y：「普通」「適正」の回答企業数
z：「悪化」「減少」「下落」等の回答企業数

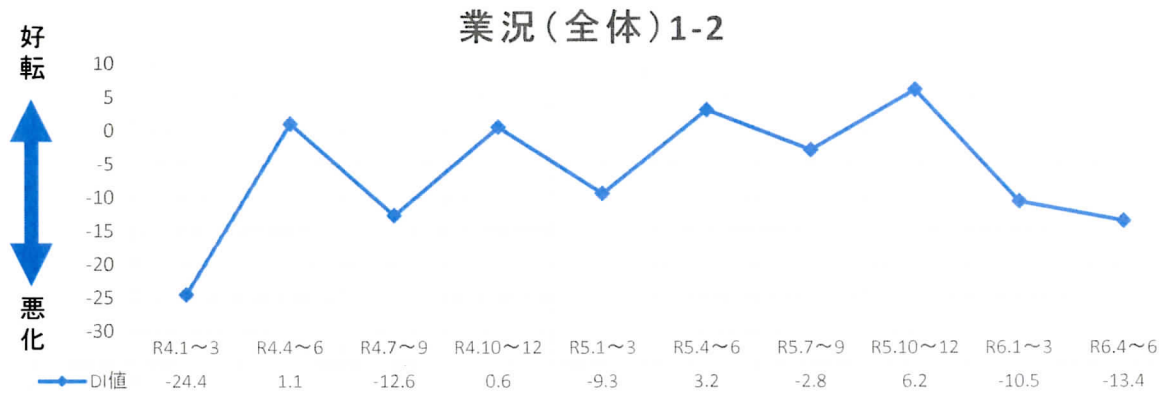
1. 当期（令和6年4月～6月）の景況について

1. 当期の業況は前年同期（1年前）に比べて



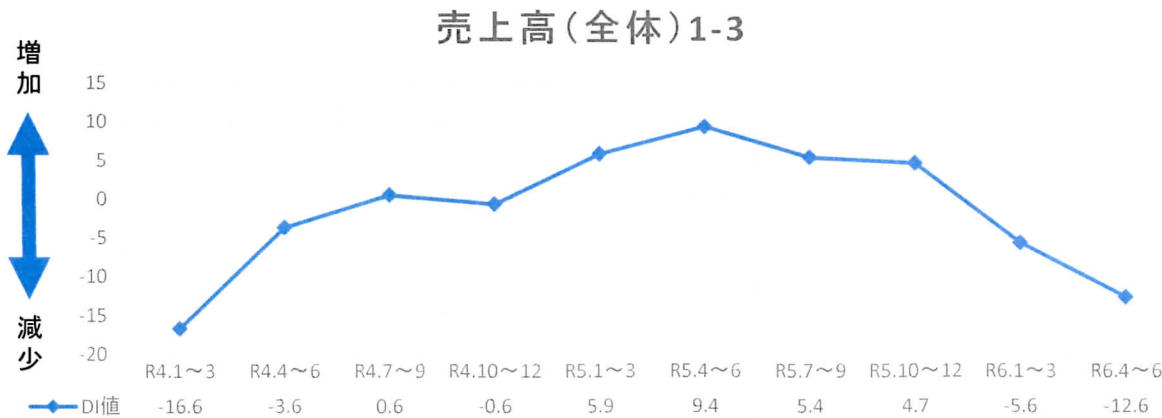
全体: 好転18%、不変 50%、悪化 32%
繊維工業: 好転15%、不変46%、悪化39%
卸・小売業: 好転21%、不変38%、悪化41%
製造業: 好転25%、不変37%、悪化38%
建設業・設備工事業: 好転0%、不変84%、悪化16%
サービス業: 好転11%、不変67%、悪化22%

2. 当期の業況は前期（前3ヵ月間）に比べて



全体: 好転 16%、不変 51%、悪化 33%
繊維工業: 好転15%、不変46%、悪化38%
卸・小売業: 好転17%、不変48%、悪化35%
製造業: 好転21%、不変44%、悪化35%
建設業・設備工事業: 好転0%、不変63%、悪化37%
サービス業: 好転19%、不変63%、悪化18%

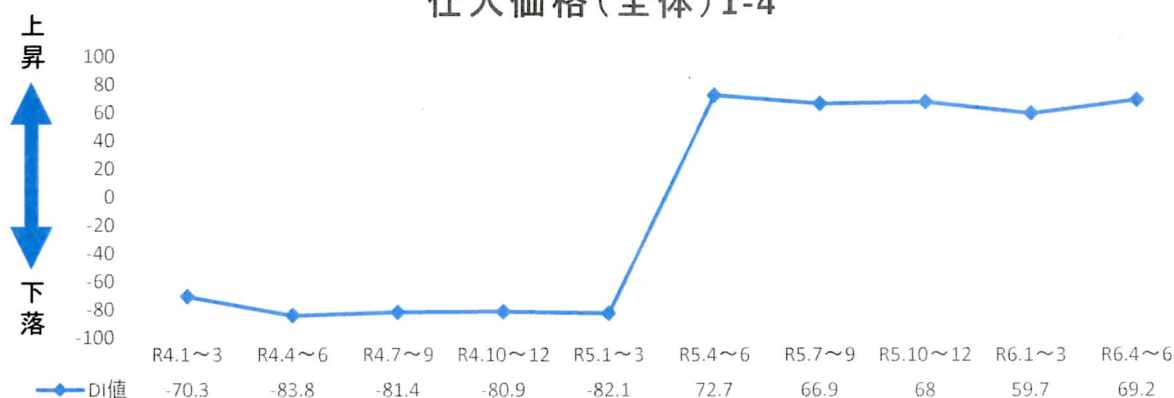
3. 売上高は前年同期に比べて



全体: 増加23%、不変40%、減少37%
繊維工業: 増加15%、不変62%、減少23%
卸・小売業: 増加28%、不変38%、減少34%
製造業: 増加29%、不変27%、減少44%
建設業・設備工事業: 増加5%、不変47%、減少47%
サービス業: 増加22%、不変52%、減少26%

4. 仕入価格（原材料）は前年同期に比べて

仕入価格（全体）1-4



全体: 上昇75%、不変25%、下落0%

繊維工業: 上昇69%、不変31%、下落0%

卸・小売業: 上昇76%、不変24%、下落0%

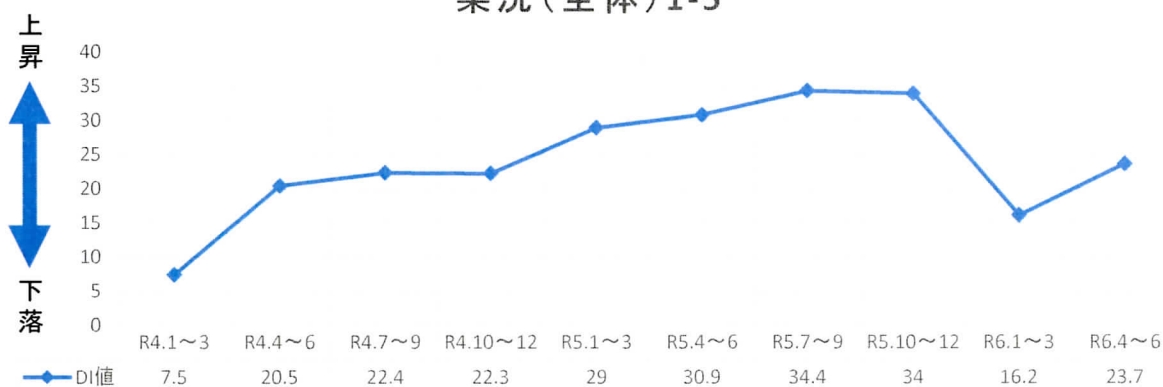
製造業: 上昇75%、不変25%、下落0%

建設業・設備工事業: 上昇79%、不変21%、下落0%

サービス業: 上昇74%、不変26%、下落0%

5. 受注・販売価格は前年同期に比べて

業況（全体）1-5



全体: 上昇38%、不変52%、下落10%

繊維工業: 上昇23%、不変62%、下落15%

卸・小売業: 上昇33%、不変63%、下落4%

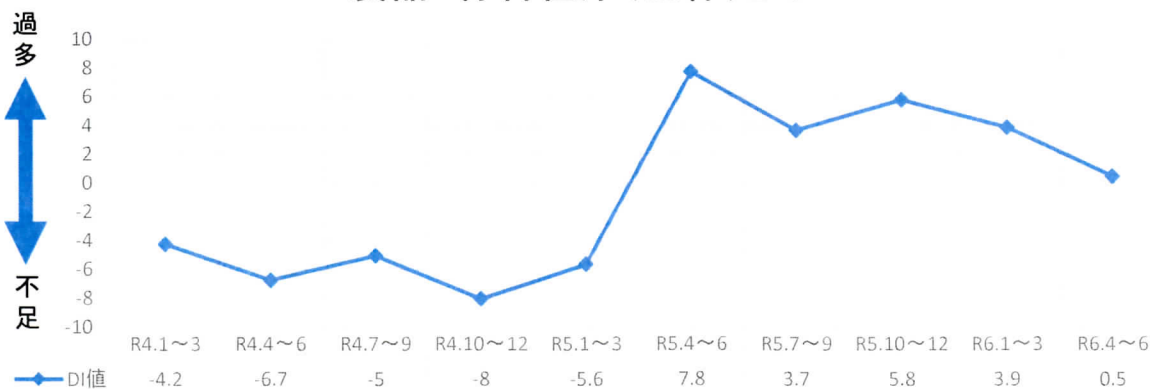
製造業: 上昇56%、不変38%、下落6%

建設業・設備工事業: 上昇11%、不変68%、下落21%

サービス業: 上昇27%、不変57%、下落16%

6. 当期の製品（材料）在庫は前年同期に比べて

製品・材料在庫（全体）1-6



全体: 過多8%、適正84%、不足8%

繊維工業: 過多15%、適正85%、不足0%

卸・小売業: 過多14%、適正83%、不足3%

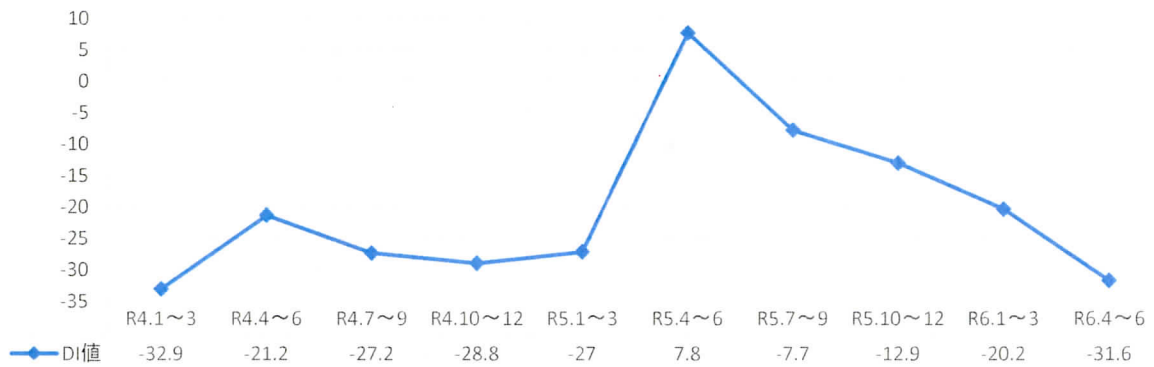
製造業: 過多6%、適正83%、不足11%

建設業・設備工事業: 過多5%、適正79%、不足16%

サービス業: 過多7%、適正89%、不足4%

7. 利益状況は前年同期に比べて

利益状況(全体)1-7

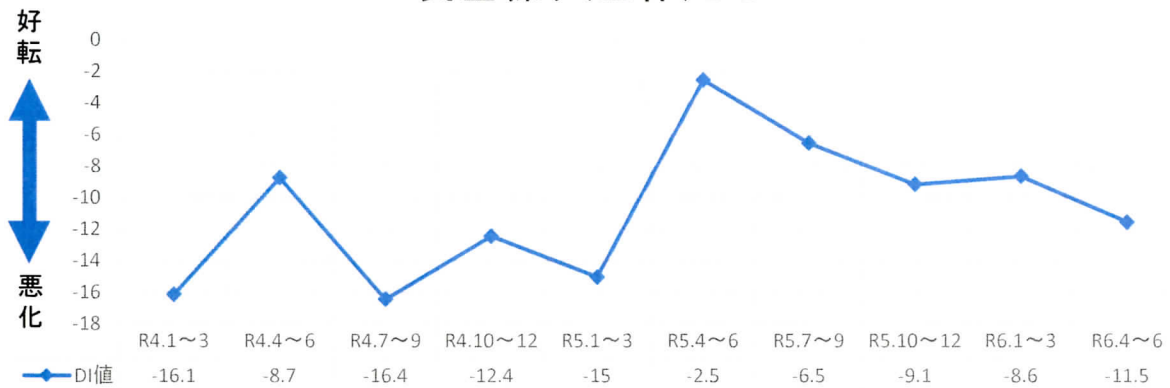


全体: 増加13%、不変39%、減少49%
 繊維工業: 増加8%、不変38%、減少54%
 卸・小売業: 増加10%、不変34%、減少56%

製造業: 増加21%、不変25%、減少54%
 建設業・設備工事業: 増加0%、不変53%、減少47%
 サービス業: 増加11%、不変59%、減少30%

8. 資金繰りは前年同期に比べて

資金繰り(全体)1-8

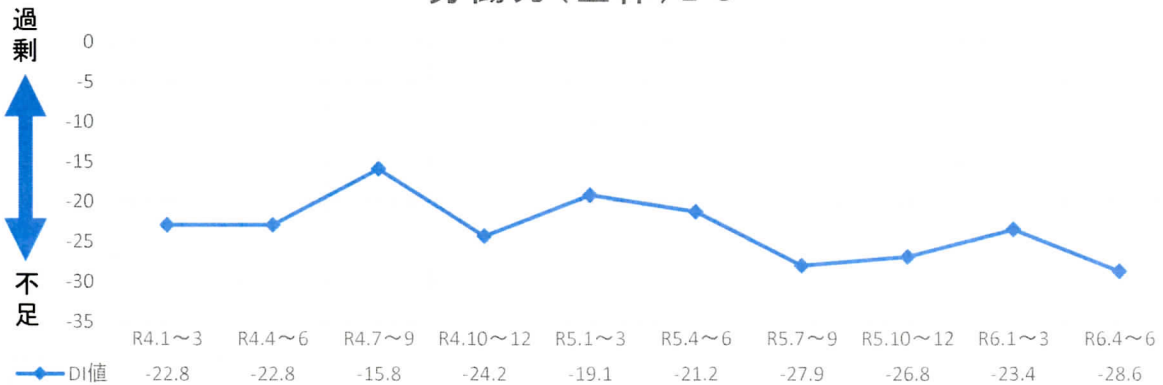


全体: 好転8%、不変70%、悪化22%
 繊維工業: 好転0%、不変62%、悪化38%
 卸・小売業: 好転7%、不変79%、悪化14%

製造業: 好転13%、不変60%、悪化27%
 建設業・設備工事業: 好転0%、不変74%、悪化26%
 サービス業: 好転7%、不変81%、悪化12%

9. 労働力は前年同期に比べて

労働力(全体)1-9

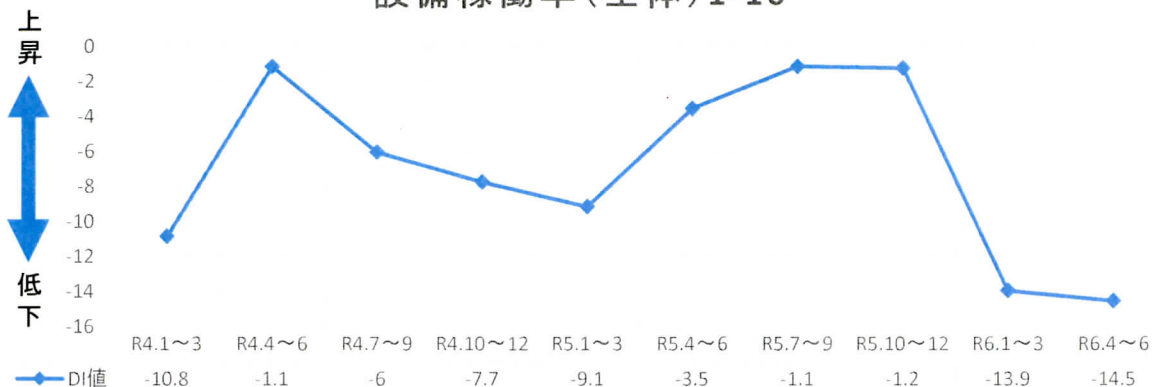


全体: 過剰7%、適正52%、不足41%
 繊維工業: 過剰0%、適正77%、不足23%
 卸・小売業: 過剰7%、適正59%、不足34%

製造業: 過剰13%、適正52%、不足35%
 建設業・設備工事業: 過剰0%、適正32%、不足68%
 サービス業: 過剰4%、適正48%、不足48%

10. 設備稼働率は前年同期に比べて

設備稼働率(全体)1-10

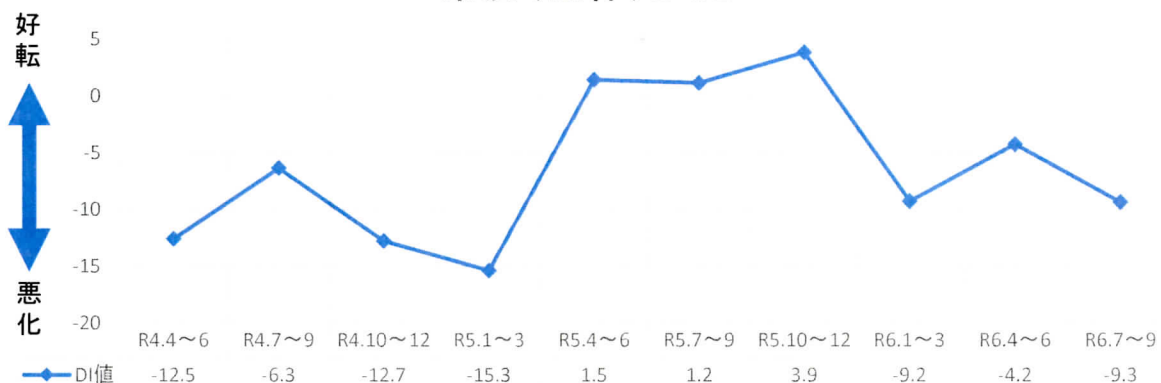


全体: 上昇0%、不変93%、低下7%
 繊維工業: 上昇15%、不変62%、低下23%
 卸・小売業: 上昇3%、不変72%、低下24%
 製造業: 上昇13%、不変46%、低下41%
 建設業・設備工事業: 上昇0%、不変89%、低下11%
 サービス業: 上昇0%、不変93%、低下7%

II. 今後3ヵ月間(令和6年7月~9月)の推移の予想について

11. 業況は当期(4月~6月期)に比べて

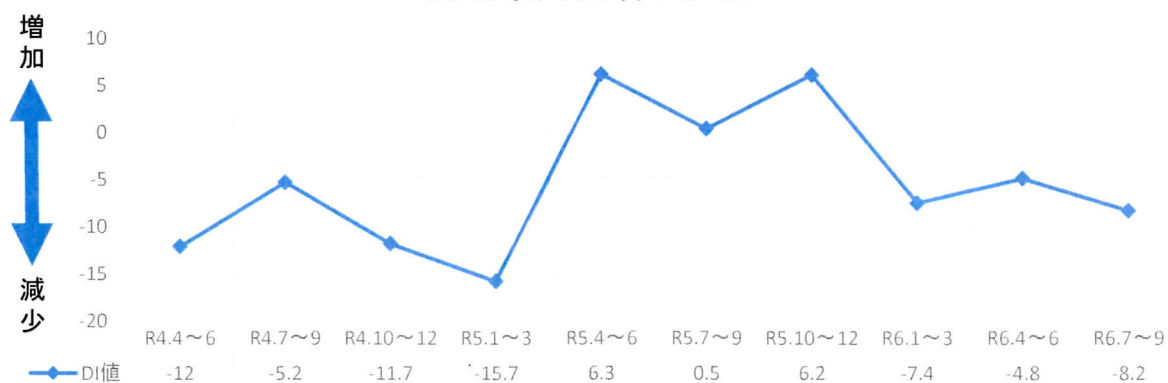
業況(全体)2-11



全体: 好転10%、不変69%、悪化21%
 繊維工業: 好転8%、不変62%、悪化31%
 卸・小売業: 好転11%、不変67%、悪化22%
 製造業: 好転15%、不変63%、悪化21%
 建設業・設備工事業: 好転5%、不変89%、悪化6%
 サービス業: 好転14%、不変68%、悪化19%

12. 売上高は当期(4月~6月期)に比べて

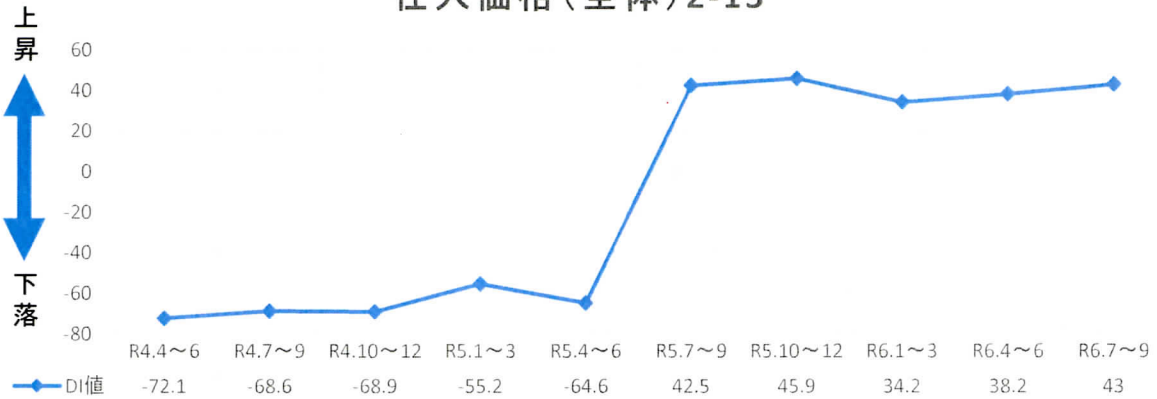
売上高(全体)2-12



全体: 増加12%、不変66%、減少22%
 繊維工業: 増加0%、不変92%、減少8%
 卸・小売業: 増加10%、不変55%、減少34%
 製造業: 増加17%、不変63%、減少19%
 建設業・設備工事業: 増加11%、不変74%、減少16%
 サービス業: 増加11%、不変63%、減少26%

13. 仕入価格（原材料）は当期（4月～6月期）に比べて

仕入価格（全体）2-13

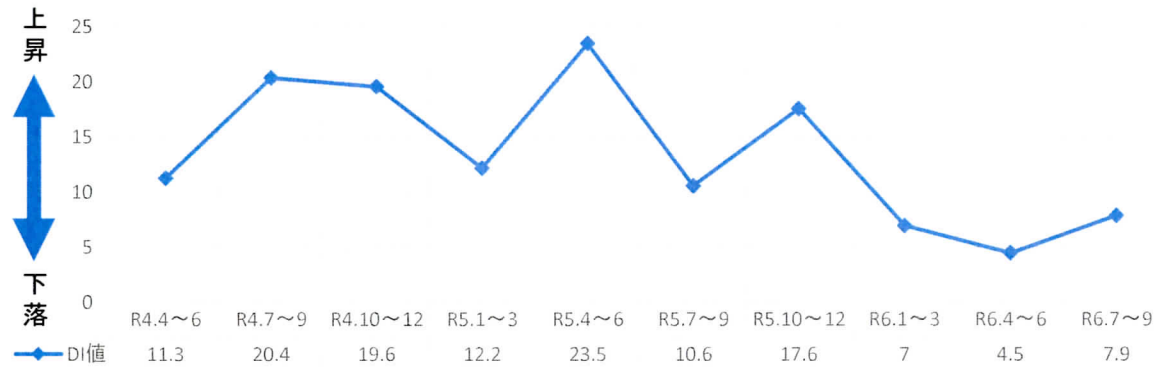


全体: 上昇50%、不変49%、下落1%
 繊維工業: 上昇46%、不変54%、下落0%
 卸・小売業: 上昇41%、不変59%、下落0%

製造業: 上昇69%、不変31%、下落0%
 建設業・設備工事業: 上昇54%、不変46%、下落0%
 サービス業: 上昇27%、不変73%、下落0%

14. 受注・販売価格は当期（4月～6月期）に比べて

受注・販売価格（全体）2-14



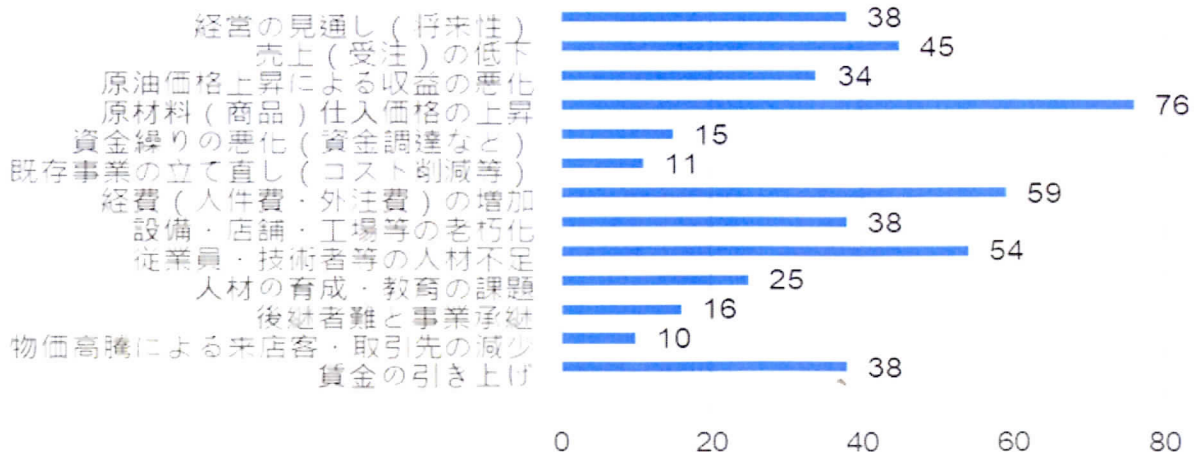
全体: 上昇17%、不変76%、下落7%
 繊維工業: 上昇15%、不変70%、下落15%
 卸・小売業: 上昇24%、不変72%、下落4%

製造業: 上昇17%、不変77%、下落6%
 建設業・設備工事業: 上昇26%、不変68%、下落6%
 サービス業: 上昇4%、不変85%、下落11%

III. 当期直面している経営上の問題点

15. 当期（4月～6月）直面している経営上の問題点について

3 - 1 5



16. インボイス制度の登録状況について

- ・登録済み 128件
- ・登録はしない 3件
- ・登録を検討中 2件
- ・その他 回答無 6件 対象外業種 1件

今回の調査では、インボイス登録を済ませていると回答したのは、業種などに偏りはなく128件、全体の91%に上った。また、登録しないとの回答は3件、全体の2%のみとの結果となった。総じてインボイス制度については登録している状況であった。

〈概況〉

【令和6年4月～6月期 実績】

- 全体の業況におけるDI指数は-12.2ポイントで、前年同期3.8ポイント(1年前)から比較し16.0ポイント減少。当期の業況-13.4ポイントも前期-10.5ポイント(前3ヶ月)と比較して2.9ポイント減少している。昨今の円安を始め、原油価格、仕入れ価格の上昇が大きな影響を与えている模様。
- 製造業の一部事業所に、円安の追い風を受けて業績が好調との声があった。
- 労働力の不足はどの産業でも多くみられるが、特に建設業・設備工事業が顕著であった。

【令和6年7月～9月期 見通し】

- 全体の業況におけるDI指数は-9.3ポイント(前3ヵ月比-4.2ポイント)とマイナス幅が増加する見込み。前回の調査では、若干プラスが増加したものの、今回の調査では、やや厳しい見方に転じた。国内需要が力強さを欠き、また深刻な人手不足や価格転嫁への対応等、企業経営の足かせは多く、また、物価高やエネルギー高の現状から、今後の見通しについても不透明感が広がる結果となった。

【直面している経営の問題点】

- 原材料(商品)仕入価格の上昇、従業員・技術者等の人材不足のほか、賃金の上昇に苦慮している様子が伺えた。
- ・電気料、運賃等の経費コストアップが想定以上(卸・小売業)
- ・売上の減少による資金繰りの悪化(卸・小売業)
- ・自動車メーカーの認証不正による工場生産停止の影響大(製造業)
- ・電気代高騰による収益の悪化(製造業)